（２３）　に　　ら

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 葉腐病 *Rhizoctonia solani*	1.排水を良好にする。	発病初期	U18	バリダシン液剤５
2 白斑葉枯病 *Botrytis byssoidea* *B.cinerea* *B.squamosa*	1.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 2.換気を図り、多湿にならないようにする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アミスター２０フロアブルおよびストロビーフロアブルは、薬害を避けるため浸透性を高める効果のある展着剤を加用しない。	発病前から発病初期	BM2 BM2 BM2 BM2	アグロケア水和剤 エコショット セレナーデ水和剤 ボトピカ水和剤
		発病初期	11 11 12 19	アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル セイビアーフロアブル２０ ポリオキシンＡＬ水溶剤
		播種時	1	トップジンＭ水和剤
3 さび病 *Puccinia allii*	1.草勢を良好に保ち、肥料不足や窒素過多を避ける。 2.罹病株は抜き取り処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブルは薬害を避けるため浸透性を高める効果のある展着剤を加用しない。	発病初期	3 11	トリフミン水和剤 ストロビーフロアブル
4 株腐細菌病 *Pseudomonas* sp.	1.施設栽培では多湿にならないよう、伸長期には換気を十分に行う。 2.露地栽培では萌芽期に発生しやすいので、春先には排水に注意する。 3.発病株は最後に収穫するか、刃物を次亜塩素酸ナトリウム0.5%液で消毒する。 4.捨て刈りの葉等は畑にそのまま放置せず、外に出して処分する。	発病初期	M1	Ｚボルドー
5 紅色根腐病 *Pyrenochaeta terrestris*	1.連作を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。	定植前	－ －	ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤
6 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.連作を避ける。 2.被害茎葉は圃場外で処分する。 3.夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 4.輪作をする場合は、ナス科以外にウリ科、アブラナ科、マメ科などを犯す（多犯性）ので、作物選定に注意する。 5.発病圃場では籾殻は使用しない。	土寄せ時	29	フロンサイド粉剤
7 アブラムシ類 （萎縮病）	1.育苗期に防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 2.４～６月、８～９月にシルバテープをはる。 3.被害株は抜き取り更新する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.病原体はアブラムシ類及び汁液で伝播される。	発生初期	4A 4A 4A 4A 9B	モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 コルト顆粒水和剤
8 ネダニ類	1.適正な施肥を行う。 2.酸性土壌を矯正する。 3.圃場内の残さや雑草を取り除く。 4.湛水可能な圃場であれば、１か月以上、湛水処理する。	定植時	1B	トクチオン細粒剤Ｆ
9 ネギアザミウマ	1.施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、飛び込みを軽減する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アグロスリン乳剤はネギコガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類にも登録がある。	定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
		発生初期	3A 4A 4A 4A 4A 5 5 21A	アグロスリン乳剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ ハチハチ乳剤
		生育期（発生初期）	4A 4A	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤